

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 第1回学校運営協議会概要

日時 令和7年5月14日（水）15時～

会場 大阪府立岸和田高等学校 校長室

学校運営協議会委員

近畿大学教授	柴 浩司	様
岸城中学校校長	松下 孝徳	様
岸城幼稚園長	小野 舞	様
同窓会会長	岸本 敬仁	様
PTA会長	新原 康宏	様
岸和田教育ネット理事長	川崎 正博	様

学校側参加者

校 長	植木 信博
教 頭	田坂 太一
事務長	野村 文博
首 席	伊藤 功士
首 席	鈴木 研太
教 諭（進路指導部長）	長谷川武央

2 次 第

(1) はじめに（司会：教頭）

① 校長挨拶

- ・お忙しい中ご出席いただいたこと、また、学校運営協議会委員をお引き受けいただいたことに感謝する。学校運営協議会は実施要項第4条にあるとおり、学校経営計画や学校評価に関する事項、授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項などについて協議を行い、校長に意見を述べるができる会議である。委員は第6条にあるとおり、保護者、地域住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者などからなる6名である。それぞれの立場で様々な視点から多くの意見をいただきたい。会議は第11条にあるとおり、年3回開催することになっており、本校では5月、10月、2月に開催予定である。
- ・私自身は再任用校長として母校に着任し、今年度、早や4年めを迎えた。この3年間、生徒たちに「岸和田高校に入ってよかった」と思ってもらえるよう、教育活動の充実などに取り組んできた。生徒たちの教育活動における活発な様子や学校教育自己診断の結果などからも、一定の成果は感じられ、めざすべき方向性は間違っていないと考えている。
- ・今回、6名のうち2名の方に新たに委員をお願いした。1名はPTA会長の変更に伴うもので、もう1名は6年間委員を引き受けていただいた元後援会会長の山路さんに代わり、現NPO岸和田教育ネット理事長の川崎さんに委員をお願いした。本日は、その2名の方に本校の教育方針や教育活動を理解していただくため、4名の方には繰り返しのなることも多いが、昨年度の資料も活用しながら説明させていただく。よろしくお願いします。

② 学校運営協議員の自己紹介

③ 本校職員の紹介

(2) 協 議

① スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて

【報告】

- ・スクール・ミッションにあるとおり、本校は今年度128年めを迎える歴史と伝統ある学校。平成23年度からグローバルリーダーズハイスクール（GLHS）として、グローバルに活躍するリーダーの育成が求められている。
- ・スクール・ポリシーはグラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・アドミッション・ポリシーの3つのポリシーからなり、学校運営協議会での承認を得たものである。
- ・グラデュエーション・ポリシーは高校3年間でどのような生徒を育てるのか、カリキュラム・ポリシーはそのためにどのような取組を行うのかを示す。また、アドミッション・ポリシーはこれまでから入学者選抜に向けて中学生に提示しているもので、どのような生徒に入学してもらいたいかなを示したものである。
- ・いずれも、国が示す「育成すべき資質・能力」の3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」を意識しながら作成した文章である。
- ・課題研究を含めた授業、GLHSとして、またSSHとして実施する多岐にわたる取組、部活動や学校行事などにより、主体的に学び、成長し、自らの進路を切り拓こうとする意欲や態度、思考力・判断力・表現力や情報活用能力を育むとともに、多様な価値観を理解・受容し、他者を思いやることのできる豊かな人間性や社会性を育むことをめざしている。
- ・アドミッション・ポリシーについては令和10年度入学者選抜に向け、見直しが求められる。改めて学校運営協議会において承認いただくことになる。

② 令和7年度行事予定について

【報告】

- ・今年度の行事予定について、新たな取組などを中心に説明させていただく。
- ・4月10日（木）に記載の1年英語運用能力測定テストは今年度から新たに始めた取組である。GLHS10校が共通して生徒の英語運用能力を測定するテストを実施することになった。1年生入学時点と2年生3学期の2回実施し、その間の英語運用能力の伸びを検証する。この結果については今後、GLHS評価審議会における評価にも活用されることになっている。
- ・4月24日（木）に姉妹校である景美女子高級中学の生徒36名が本校を訪れ、2年生と交流を行った。本校からは10月の2年生台湾修学旅行において景美女子高級中学を訪問する。
- ・5月1日（木）に校外学習を実施した。1年生は堺市の原池公園（バーベキュー）、2年生は神戸、3年生はUSJへ行った。
- ・5月30日（金）すべての学年が大阪・関西万博に行く。学校として行かなくても、生徒一人ひとりにチケットを配ることはできるが、個別に行く生徒は少ないと考える。せっかくの機会であるため、学校として校外学習とは別に、大阪・関西万博に行くことを決めた。
- ・7月25日（金）から、24名の生徒がイギリス研修に出発する。昨年度は35名が参加したが、今回、同時期に実施するSSH探究スタディツアーやSSH生物フィールドワークに定員を大幅に超える希望があったことも参加人数が減少した要因であると考えている。生徒たちが自分の興味・関心に基づき、多様な取組から選択し、参加できるのが本校の魅力であると考えている。
- ・文理課題研究発表会は例年どおり、9月に中間発表、1月に最終発表として実施する。
- ・体育祭については例年より1週遅らせ、9月26日（金）に実施予定である。昨年度は真夏のような暑さの中、予定していた複数の競技を取りやめ、時間を短縮して実施した。1週のことではあるが、実施日を遅らせることで、平均気温においても大きな差がある。
- ・10月21日（火）から2年生が台湾への修学旅行を実施する。昨年度、5年ぶりにコロナ禍前に行っていた台湾修学旅行を再開させた。

③ 令和6年度学校教育自己診断の結果について

【報告】

- ・昨年度12月に実施した学校教育自己診断の結果について説明させていただく。資料には令和4年度から3年間の推移を示している。令和4年度は私が着任した年度であり、この資料は私自身の3年間の成果と課題を示すものとなる。教職員については大きな振れはなく、上がったったり下がったりの項目が多い。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が83.9%→89.3%→92.6%と3年連続で上がり続けていることについては校長としてとても嬉しい。
- ・生徒の結果については、校長として、「岸和田高校に入学して満足している」と「学校に行くのが楽しい」の2つの項目を重視している。それぞれ最初の2年間数値は上昇したが、昨年度は下がった。3年連続上昇という項目が多くあった中で、「岸和田高校での授業に満足している」が下がったことが影響していると分析しており、授業に対する満足度の向上が喫緊の課題だと考えている。このことは、保護者の「岸和田高校は教員の教科指導力の向上に積極的に取り組んでおり、子どもは授業が分かりやすいと言っている」が下がったこととも合致している。また、この結果については、特に1年生の数値が大きく下がったことがその要因となっている。
- ・生徒・保護者の自由記述においては、上記の授業改善に関すること、課題の多さに関すること、補習・講習の充実に関すること、生徒用個人ロッカー設置に関すること、保護者との連携に関することなどが複数あがっていた。

【質疑応答】

(委員) (小野様)

学校教育自己診断において生徒用個人ロッカーに関する記載があるが、教育環境の整備で取り組んだことは？

(学校)

校長となった1年めの学校教育自己診断においてもロッカー設置に関する要望があり、設置に向けた検討を行い、教室前の廊下への設置について協議したが、有事の際の危険を考えると、設置を断念せざるを得なかった。その結果については、保護者宛てに文書にてお知らせした。ただ昨年度、改めてロッカー設置を求める声があり、最終手段として選択教室への設置について協議したが、現状活用している日数の多さから、実現不可能と判断した。したがって、これまでどおり、机の下にBOXを置くことで対応してもらうことになる。

(委員) (小野様)

学校教育自己診断の結果および自由記述でも授業改善を求める声があるが、学校として授業改善に向けて取り組んでいることは？

(学校)

教員一人ひとりの授業改善をめざし、「授業公開週間」として教員が互いに授業を見学できる期間を8月末からの3週間と11月上旬からの3週間の年2回設けるとともに、その期間中に研究授業を実施している。そして、それぞれの「授業公開週間」の最終日には研究授業などに関する研究協議を実施している。また、外部講師を招聘し、研究授業・研究協議・講演を実施する「授業力向上研修」を年1回行っている。

校長としては、府立高校において年2回実施する生徒による授業アンケートの結果を活用した「授業振り返りシート」を教員に作成させたうえで、面談において活用している。

④ 令和7年度学校経営計画について

【報告】

- ・令和7年度学校経営計画については、昨年度の第3回学校運営協議会において承認をいただいたところである。上段に記載している「めざす学校像」については、スクール・ミッションやグランドデュエーション・ポリシーなどに基づいた内容となっている。「目標とする学校像」に記載のとおり、教職員にも主体的に取り組み、成長してもらいたいと考えている。

- ・中期的目標については、「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成、「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」、「豊かな感性」「高い人間性の育成と「安全で安心な教育環境」の整備、「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上の4つを大きな柱としている。
- ・各項目の成果指標については、本年度の取組内容及び自己評価に記載している。中期的目標の4つの柱に対して、今年度の重点目標と具体的な取組計画・内容を示したうえで、それぞれの取組に対して評価指標を設定している。評価指標については、学校教育自己診断やその他のアンケート調査、生徒による授業アンケートなどの数値を指標としている。
- ・今回変更したのは、「学習習慣の定着と時間管理能力の育成」の指標。令和6年度は「岸高手帳」の活用を評価指標としていたが、活用することが目的ではないことから、より直接的な新たな指標として、学力生活実態調査の学習時間（平日1時間30分、休日3時間以上）を設定した。

⑤ GLHS卒業生アンケート（H25～R6）について

【報告】

- ・GLHS卒業時のアンケート集計と書かれた資料について説明する。グローバルリーダーズハイスクールを担当する大阪府教育庁高等学校課がGLHS1期生となる平成23年度入学生から卒業時にアンケート調査を行っており、本資料はその結果（推移）をまとめたものである。H25の表記が平成23年度入学生で、R6の表記がこの春卒業した77期生である。
- ・GLHS1期生となる本校66期生はGLHS全体と比較してかなり高い数値であったが、それ以降は下がってきていた。校長に着任し、この資料を見て驚き、これらの指標の上昇（自己肯定感の向上など）を自らのミッションの一つと考え、この3年間取り組んできた。私の着任はR4からとなるが、これまでの下降が下げ止まり、上昇に転じつつある。もちろん、コロナの影響から抜け出したことも上昇した大きな要因だとは考えている。
- ・特に、3年間をともに過ごしたR6（77期生）についてはその上昇が顕著に現れた。「自分の可能性を信じる」「周囲を説得できる」「学校生活は充実していた」「この学校を卒業することを誇りに思う」などの項目がGLHS全体の平均を超え、日頃から「楽しく充実した高校生活を送ってほしい」と言い続けている私にとってはとても嬉しい結果となった。なお、私自身は77期生の様子を見ていて、この数値の公表前から、上昇を確信していたところである。
- ・ただ、「勉強していて楽しい」「苦手科目を克服したい」などの学習面に関する項目については、GLHS全体と比較するとまだまだ低いことから、本校生徒たちには改めて、学習面でのさらなる意識向上を図っていかねばならないと考えている。

⑥ 昨年度の進路実績について

【報告】

- ・昨年度卒業した77期生について、現役で京都大学に2名、大阪公立大学医学部医学科に1名が合格した。76期生に続き、現役での京都大学の複数合格、国公立医学部医学科の合格を達成することができた。
- ・一方、77期生は76期生と比較しても国公立大学合格者については大きな差はなかったが、大阪大学・神戸大学の合格者数が減り、和歌山大学の合格者数が増える結果となった。和歌山大学が増加した要因は、後期試験での合格者が増えたことにある。前期試験で不合格であった生徒が後期試験まで粘り強く取り組んだという前向きな捉え方もできるが、多くの生徒が前期試験で思うような結果を出せなかったという捉え方もある。
- ・76期と比較して77期は、入学当初に行う学力調査の結果においてSゾーンに位置する生徒が約50名減少した学年であり、そのことを考慮すると77期生の結果は健闘したと考えることもできる。ただ、1年次夏に実施した進路希望調査において京都大学・大阪大学・神戸大学への進学を希望する生徒数は76期も77期もほとんど差がないことから、生徒たちの第1希望の進路実現を果たすためにも、生徒たちの学力向上に向けた取組が課題となる。

- ・スーパークラスにおいても大阪大学・神戸大学の合格者数が減少したため、より一層、難関国公立大学に合格できるだけの学力をつけるための指導が求められる。特に、英語・数学・国語3教科について早期からの受験を見据えた学習・指導が課題であると考えられる。

⑦ 新1年生（80期生）の状況について

【報告】

- ・⑥でも記述した学力調査でSゾーンに位置する生徒数について、77期から現3年生の78期ではさらに40名ほど減少したが、79期で15名増加し、今年度入学生80期は79期とほぼ同数であった。ここ3年は大きな変化は見られず、ある程度の下げ止まりを感じている。
- ・進路希望調査の結果については、現2年生の79期、現3年生の78期もほぼ例年どおりであることから、第1希望の進路実現をめざすためには、先ほどの77期の結果を考えると、丁寧な指導を行いながら、これまでと同様の学力レベルまで引き上げていかなければならない。これまで以上に、早期から学習における躓きや課題の難しさを感じる生徒が増えることが予想される。
- ・できないことについては、いくら効率よく行おうとしても限界があることから、学習時間を確保することが不可欠となる。現1, 2年生に先輩たちの学習時間の推移を示すなど、学習時間の確保について、低学年からしっかりと指導を行っていく。平日は部活動などもあり、多忙で学習時間を確保することができない生徒も多くいるため、休日の使い方がより重要となる。その点についても、引き続き、指導していきたい。

【質疑応答】

（委員）（柴様）

今年の1年生の様子、例えば部活動の加入率や来ている地域などについて変わりあるか。

（学校）

運動部に入部しようという生徒の動きについて、4月当初は静かな印象であった。来ている地域に関しては大きな変化は感じていない。これまでから岸和田市を中心に北からも南からもバランスよく入学している。大阪市内や堺市から登校してくる生徒も多くいる。学習面においては、初めての中間考査に向けて頑張っている様子である。

（委員）（川崎様）

英検2級を取得して受験している生徒はどれくらいの割合いるのか。グローバルリーダーズハイスクールの一部の高校では、ほぼ10割と聞いたのだが。

（学校）

今年度の入学者選抜の数値ではないが、昨年度の入学者選抜においては、本校では約35%の生徒が英検2級を取得していた。この間、ずっと増え続けているため、今年度の入学者選抜ではもう少し増加しているものとする。

（委員）（岸本様）

入学当初に行った学力調査においてSゾーンであった生徒はどのような大学に進学しているのか。

（学校）

大学受験の場合は国公立大学の合格・不合格によって進学先が決まるため、様々である。なお、京都大学・大阪大学・神戸大学などに進学しているのは入学当初にSゾーンであった生徒が多い。

⑧ 広報／グローバルリーダー養成プログラムについて

【報告】

- ・資料にあるとおり、今年度も昨年度と同様、夏と秋に「岸高見学会」を開催するとともに、外部機関主催の各種説明会などにも参加する予定である。

- ・昨年度より開始したInstagramでの情報発信についても継続し、学校生活をより身近に感じてもらえるよう取り組んでいく。発信体制の強化として、発信チームを編成し、投稿頻度の向上を図るとともに、探究Instagramとの統合を行い、多様な情報を効果的に発信していく方針である。
- ・海外研修プログラムにおいては、学校主催の海外研修プログラムおよびGLHSでの海外研修プログラムの実施も予定しており、これらを含めた多様なプログラムへの積極的な参加を促していきたいと考えている。

⑨ 課題研究の取組について

【報告】

- ・昨年度より木曜 6 限に全学年同時展開（2 年生は木曜 5，6 限）による探究活動を開始し、学年を超えた多様な企画を実施している。それに伴い、すべての教員が指導に関わる体制となり、学校全体で「主体的な学び」をめざす取組へと発展している。生徒・教員ともに学年や教科の垣根を越えて協働しながら、創造性を育む学習環境の構築に努めている。
- ・そうした取組の成果の一つとして、大阪府学生科学賞において 2 年連続で大阪府知事賞を含めた最優秀作品賞を 2 本および学校賞を受賞した。このように、日々の取組が着実に成果へとつながっていることを実感している。
- ・これらを踏まえ、現在、学校の特色ある取組をさらに発展させるべく、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）第Ⅳ期の申請に向けた準備を進めているところである。

3 今後の予定

- ・第 2 回 10月29日（水）15:00～
- ・第 3 回 2月18日（水）15:00～

4 校長より

最後になったが、一つお伝えさせていただく。昨年度の第 3 回学校運営協議会において、スーパークラスについてクラス増や入れ替えなどに関する意見が出された。この間、様々な視点から議論を重ねてきたが、今年度はこれまでどおり、理系 1 クラス、文系 1 クラスで募集を行うことを決定した。スーパークラスについてはこれまでから京都大学・大阪大学・神戸大学・医学部医学科などの難関国公立大学をめざす生徒を対象としたクラスとしており、現状の希望者はそれらを合計しても 80 名を少し超える程度であるというのがそう結論づけた理由である。今後、難関国公立大学を希望する生徒が 120 名を超えるようになってくれば増クラスを考えたい。

本日は長時間にわたり、貴重な意見をいただいたことに感謝する。この学校運営協議会ではいつも委員の皆様から激励の言葉をいただき、校長として、本校生徒たちのために、また、岸和田高校の発展のために頑張らなければと勇気づけられる。

本日は本校の取組や現状などについての説明が長くなってしまったが、次回の 10 月 29 日（水）には話しだけではなく、実際に授業を見学してもらう予定である。引き続き、よろしくお願いします。